

林業試験場成果発表課題 要約

1. 無花粉スギの創出と選抜について

(研究員 松久保康輔)

林業試験場は、和歌山県の精英樹に由来する無花粉スギの創出を目的として、2000年3月より人工交配、調査選抜を行っている。無花粉スギのクローンで造成した検定林にて、精英樹と同等以上の初期成長を示す個体の選抜を行ったところ、20系統が選抜された。今後、材質調査等を行い、精英樹より優れた無花粉スギの品種登録を目指す。

2. 獣害対策資材について ～鉄鋼スラグ、メタルラスの活用～

(主任研究員 法眼利幸)

鉄鋼スラグ舗装と電気柵を組み合わせると高い通電性を維持しながら草刈り作業を軽減でき、10年後もその効果が維持されることが分かった。(果樹試験場との共同研究)

7年前にメタルラス(モルタルや漆喰などの下地に用いる金属製の網)を囲うように設置していたウバメガシは萌芽更新していたため、メタルラスは植栽木等のシカ食害対策として使えると考えられた。現在メタルラスは錆びて分解しつつあり、回収は必要ない可能性が高い。

3. 林業試験場中辺路試験地の取り組みについて

(主査研究員 松本康久)

林業試験場中辺路試験地では、県内の植林地に山行き苗木を安定的に供給するため、スギやヒノキの優良な種苗を育成しているほか、松くい虫被害に対する抵抗性マツ苗や里山再生・広葉樹林用の緑化木、花粉症対策に関する品種の育成・研究などに取り組んでおり、その内容について紹介する。

4. 大径材から生産されるラミナを使用した接着重ね梁の強度性能

(研究員 一岡直道)

県産スギ、ヒノキ大径材の活用に向け、大径材から生産されるラミナの強度分布や、そのラミナを使用して作製した接着重ね梁の強度性能に関する知見を得た。これらの成果は、県産大径材からラミナを加工し、強度性能が明らかな横架材を作製するためのデータとして活用できると考えられる。

5. ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」防除技術の早期確立

(主任研究員 田中作治)

ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」の防除技術の早期確立のため、病害の発生病害発生消長調査及び菌糸伸長試験、病原菌の感受性検定、薬剤効果試験を実施した。その結果、梅雨及び秋雨時期に被害拡大することと、2種類の薬剤(ベンレート水和剤、トリフミン水和剤)に防除効果があることがわかった。